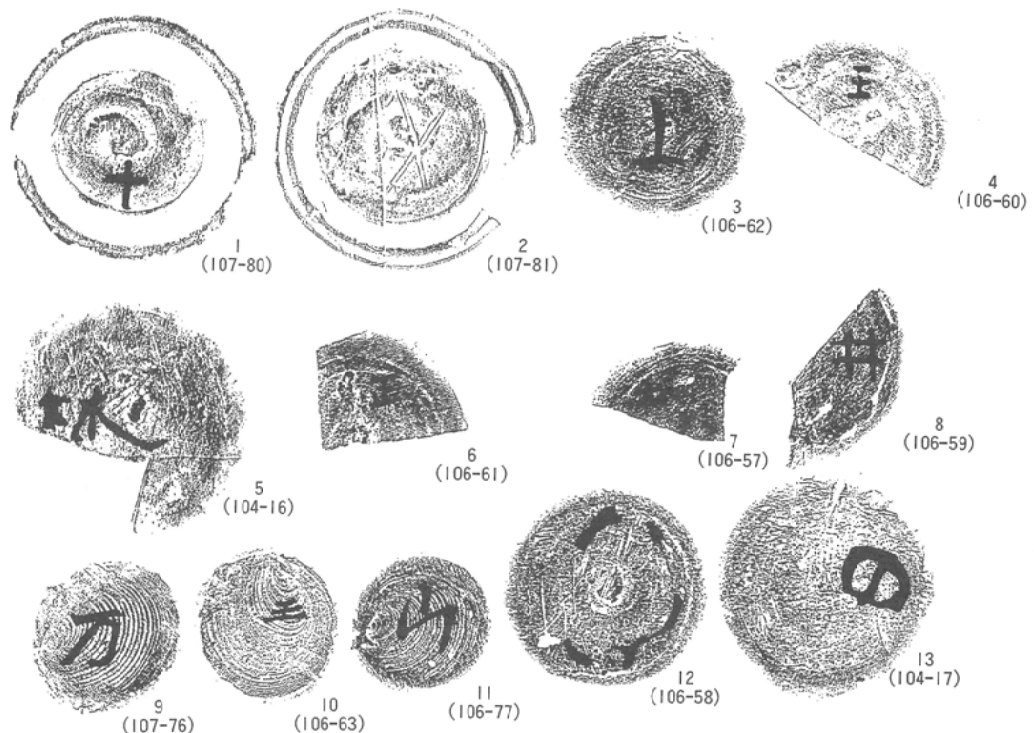


(4) 墨書土器について

墨書土器は、須恵器・あかやき土器の坏や蓋で確認した。坏底部22点、坏体部1点、蓋1点確認している。ヘラ切り坏への墨書は底部端に位置するものが多い。糸切り坏では中央部になされている。墨書された文字は「王」「大玉」「井」「林」「上」「十」「山」「万」「土」「正」「死」が見られる。その他「〇」など印的なものも存在する。「上」「井」「林」「十」「土」「王」「正」は須恵器ヘラ切り坏に見られ、「王」「万」「山」は須恵器糸切り坏に見られる。これら墨書土器の多くは溝跡（S G59）内出土である。さて、庄内地区でこれまでに出土している墨書土器と比べると、「王」は遊佐町下長橋遺跡、遊佐町宮ノ下遺跡、八幡町沼田遺跡で出土している。「井」は酒田市関B遺跡、酒田市手蔵田2遺跡、酒田市生石2遺跡、酒田市上曽根遺跡で出土している。「上」は、遊佐町地正面遺跡、酒田市熊野田遺跡で出土している。「万」は遊佐町小深田遺跡、遊佐町北目長田遺跡、遊佐町宮ノ下遺跡、酒田市関B遺跡、酒田市手蔵田5遺跡、酒田市生石2遺跡、酒田市沼田遺跡、平田町桜林興野遺跡などで出土している。（斉藤俊一1996による）

この中で沼田遺跡からは、「王」が64点出土し、「山」「万」等の墨書も見られ文字の組成から類似が見られる。「王」の文字は、百済王との関わりについて関心が持たれているが判然としない。



第120図 中谷地遺跡墨書土器集成